

読者の声



ビュートゾルフに 行ってきました！

辻弘美

東京・LE 訪問看護ステーション管理者

誰しも、人生を変えるくらいの出来事が、時にはあるのではないのでしょうか。私にとってそれは、オランダの在宅ケア組織Buutzorg（以下、ビュートゾルフ。本誌2014年6月号にて特集）との出会いです。昨年9月に現地アルメロを視察してきました。ビュートゾルフには、地域包括ケアシステムの構築だけでなく、日々のステーション運営に活かせるヒントも多く、そのごく一部をお伝えします。

ビュートゾルフの代表ヨス・デ・ブロックさんの言葉で、印象に残っていることのひとつは「スタッフがボスに耳を傾けるようになったら、利用者に耳を傾けることはできない」というものです。ビュートゾルフに管理者はおらず、看護師らのフラットな関係に基づく「自律組織」であるところに、その特徴があります。1チームは最大12人で構成され、5つの役割を固定せず分担しているそうです。一方、8500人の専門職に対して15人のコーチが、存在します。評価や指導をするのではなく、そのチームの問題解決の支援に徹し、その成長のためなら小さな失敗や回り道も見守ります。

ビュートゾルフでは、「利用者の自律」もまた尊重しています。自立支援による自己管理を中核に、次に

インフォーマルネットワーク、そしてビュートゾルフチーム、最後にフォーマルネットワークで支えていく「玉ねぎモデル（p.253）」と呼ばれる支援体制を構築していきます。インフォーマルネットワークを構築・最大活用することは重要です。「何をするか」より「何をしないか」の判断が常にあります。何もしないことにも根拠があり、すべては自立支援と問題解決のためです。

実際に同行訪問の際、その一端を垣間見ました。手すりなどの福祉用具はほとんどありませんでした。本人にできることは自分でやってもらい、訪問看護師は手を出さず、話しかけながら見守っていました。「必要な時間に、必要なだけの支援を」という考えに基づき、短時間の訪問を1日に何度もすることもあります。

バイタルサイン測定も、全員には行ないません。同行訪問後、日本から一緒に視察に出かけた別の看護師に聞いたエピソードです。胸部の違和感を訴える利用者に症状を聞き、薬を確認し、話を聞いて訪問を終えたビュートゾルフの看護師に、日本人看護師が「痛みの原因は何だったの？」と尋ねると、「……どうして原因を知ることが、そんなに大切なの？」と聞き返されたのだといいます。つい「原因」のアセスメントを真っ先にしまい、それを判別できただけで満足したり、ケアの質の高さと混同してはいなかったかと、ハッとさせられました。管理者として私自身、スタッフからの報告に「その痛みの原因は？」と真っ先に聞いていました。根拠を求める傾向の強

い看護教育のなかで、いつの間にか“原因さがし”に偏ってしまっていた自分を発見したのです。しかし、大切なのは問題解決であり、原因はその材料のひとつでしかありません。看護は本来シンプルであり、ここに原点があります。これからは「それで、何をしてきたの？」といちばんに問いかけたいと思いました。

スタッフのライフワークバランスへの取り組みもあり、労働時間の60%は報酬を伴うことに使うと決まっているといいます。時差出勤や半日勤務などに加え、3週間の休暇を全員がとることになっていました。

ビュートゾルフを実際に見る前は、利用者満足とスタッフ満足がそう簡単に両立するものかと半信半疑でした。しかし、現場の声を聞き、運営の実際を見るにつけ、新鮮な感動を覚えました。あるビュートゾルフの看護師は、「私のボスはこの人（利用者）だから、この人のためにやるのよ」と言っていたそうです。できるだけよい仕事をしたいという誇りと、それを自分で考え機能できる余裕さえあれば、80%の組織は管理者なしに成功できるという話も、視察中のレクチャーのなかでありました。専門職の自律と誇りを根本的に信頼するところから、すべては始まっているのです。これから日本で、地域包括ケアを築きあげようとする情熱をもって集まった同志と巡り合えたことも、とても大きな収穫でした。この思いを、1人でも多くの現場の仲間たちに伝えていきたいと思います。

あなたの「声」を お待ちしております。

編集室
より

掲載記事に対する感想／著者への手紙／編集室への意見・提案／看護に対するエッセイ／取り上げてほしいテーマなど、何でもOK。読者同士の情報・意見交換の場にしたいと思います。

●投稿について

封書、ハガキ、FAX、メールにて下記までお送りください。実名掲載が基本となりますが、匿名の場合はその旨明記ください。掲載分には医学書院特製図書カードを進呈します。

●宛先

郵送の場合：〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

医学書院「訪問看護と介護」編集室

FAXの場合：03-5804-0485 E-mailの場合：houmon@igaku-shoin.co.jp